

タスク・シフト／シェアの推進が臨床検査技師業務に及ぼす影響

分担研究報告書（令和 6 年度）

研究分担者 板橋 匠美（一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 主幹
東京医療保健大学 総合研究所 客員准教授）

研究代表者 小坂 鎮太郎（地域医療振興協会地域医療研究所 研究員）

研究分担者 青木 拓也（慈恵会医科大学 臨床疫学研究室 講師）

研究要旨

本研究は、医療現場における臨床検査技師のタスク・シフト／シェアの現状と課題、そして教育的支援の必要性を明らかにすることを目的として、スコーピングレビューを実施した。

近年、医療技術の高度化や医師・看護師不足、高齢化による医療需要の増大を背景に、業務の効率化と質の向上を目指して、医療職間での業務分担や移管が進められている。

本レビューでは、PubMed および医中誌 Web を用いて、「臨床検査技師」および関連職種と「タスクシフト」「タスクシェア」に関する文献を検索し、14 件の国内外文献を分析対象とした。

その結果、臨床検査技師が従事するタスク・シフト／シェアの対象は、病理検査補助、内視鏡や超音波検査の介助、採血業務、HIV 検査とカウンセリング、検査室運営支援など多岐にわたり、いずれも医師等の業務負担軽減や処理時間の短縮、患者サービスの向上に寄与していた。

一方、制度的な整備の遅れや教育体制の不備が課題として挙げられ、職種間の役割明確化や技能習得支援の仕組みが求められている。特に、業務の標準化、安全性の担保、教育プログラムの整備は、今後の持続可能な実装に不可欠である。

以上の結果から、本研究は臨床検査技師におけるタスク・シフト／シェア推進に向けた実態把握と今後の施策設計に資する知見を提供するものである。

キーワード：タスク・シフト／シェア, 臨床検査技師, 医療業務の効率化, 教育的支援, スコーピングレビュー

A. 研究目的

【背景】

医療現場では技術革新や医療ニーズの多様化に伴い、医療従事者の役割が急速に変化している。この変化の一環として、タスクシフトおよびタスクシェア（以下、タスク・シフト/シェア）という概念が注目されている。タスクシフトとは、特定の医療行為や業務を従来の専門職から他の職種へ移譲することであり、医療チーム全体の効率性を向上させ、医療サービスの質を高めることを目的としている。一方、タスクシェアは、複数の専門職が特定の業務を共同で遂行することで、個々の負担を軽減し、より効果的なケアを提供することを目指している。これらの戦略は、特に医師不足や看護師不足が深刻な地域において重要視されており、我が国においても着目した施策が近年行われた。

タスク・シフト/シェアの背景には、いくつかの要因がある。まず、医療技術の進歩により、診断や治療のプロセスが高度化・複雑化していることが挙げられる。これにより、特定の専門職に過剰な負担がかかることが多くなり、その結果、医療従事者の疲弊や離職率の増加が懸念されている。さらに、高齢化社会の進展に伴い、慢性的な疾患を抱える患者が増加しており、これらの患者に対する継続的かつ包括的なケアが求められている。このような背景から、医療資源の有効活用と医療サービスの持続可能性を確保するために、タスク・シフト/シェアが必要不可欠な戦略とされている。

【目的】

本スコーピングレビューは、臨床検査技師におけるタスク・シフト/シェアの現状を体系的に把握し、その課題と教育的支援の必要性を明らかにすることを目的としている。具体的には、既存の文献をレビューすることで、臨床検査技師がどのような役割を担っているのか、どのような技術や知識が求められているのか、そして

それを実現するためにどのような教育的支援が提供されているのかを明らかにする。本レビューを通じて、臨床検査技師に求められている役割に対応したタスク・シフト/シェアの実現に向けた具体的な施策を提案する。

B. 研究方法

本研究では、Arskey と O' Malley によって提唱され、Levac らによりフレームワークが制作され、JBI と JBI 共同研究 (JBIC) のワーキンググループによって作成されたスコーピングレビューのガイドラインの最新版によるスコーピングレビューの方法論を採用し、臨床検査技師に関するタスク・シフト/シェアの現状と課題、そして教育的支援の必要性を明らかにするため、以下の手順に基づいて実施した (図 1)。

1. レビューの目的と研究質問の明確化

本レビューの主要な目的は、臨床検査技師のタスク・シフト/シェアに関する現状と課題を明らかにし、さらにそれを実現するための教育的支援の必要性を検討することである。この目的を達成するために、以下の研究質問を設定した。

- 臨床検査技師におけるタスク・シフト/シェアの現状はどのようなものか。
- タスク・シフト/シェアに関連する技術的および知識的な課題は何か。
- タスク・シフト/シェアを実現するための教育的支援はどのように提供されているか。

2. 検索方法

本レビューでは、PubMed 及びメディカルオンラインを主要なデータベースとして選定した。PubMed は医学および生命科学分野におけ

る包括的な文献データベースであり、メディカルオンラインは日本国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学、歯学、薬学、看護学、医療技術、栄養学、衛生・保健などのあらゆる医学関連分野の「医学文献」である。これらオンラインデータベースを組み合わせることで、タスク・シフト/シェアに関連する多くの研究をカバーできるよう実施した。

検索キーワードには、「タスクシフト」、「タスクシェア」、「臨床検査技師」とし、検索期間は 2025 年 4 月 31 日までの英語および日本語の文献を対象とした。

また、臨床検査技師は諸外国での職種名称や役割の違いがあることから、これを網羅するため検索キーワードには以下の 14 個の用語に選定した。

Medical Laboratory Technologist
Medical Laboratory Assistant
Medical Laboratory Scientist
Medical Laboratory Technician
Phlebotomy Technician
Histotechnician
Phlebotomist
Medical Technologist
Biomedical Analyst
Biomedical Scientist
Clinical Scientist
ECG Technician、Hospital Scientist
臨床検査技師
検査技師

なお、the Open Science Framework に上記検索条件をおって登録予定としている。

3. 文献の選定基準

文献の選定基準は以下の通りとし、除外基準としては、学会抄録、レビュー論文、会議録、未発表の学位論文、ならびに関連性が低いと判断された文献を排除した。

- 論文であること。
- タスク・シフト/シェアに関連する内容を含むこと。
- 臨床検査技師に焦点を当てていること。

4. 文献の検索と取得

タスク・シフト/シェアのキーワードで検索を行い、初期の検索結果として PubMed では 3, 850 件、医中誌 Web では 4, 148 件の文献が抽出された。またこれとは別に、臨床検査技師のキーワードで検索を行い、初期の検索結果として PubMed では 34, 783 件、医中誌 Web では 13, 552 件の文献が抽出された。

これら抽出された文献から、タスク・シフト/シェアと臨床検査技師のいずれもキーワードとしてもつ文献の抽出を行ない、PubMed では 6 件、医中誌 Web では 427 件の文献が残った。その後、重複文献の削除を行い、最終的に 433 件のユニークな文献が残った。

5. 文献のスクリーニング

2 段階のスクリーニングプロセスを実施した。

- タイトルと要旨のレビュー：2 名のレビューアが独立して文献のタイトルと要旨をレビューし、意見の相違は協議するものとして基準に合致する文献を選定した。この段階で約 404 件の文献が除外された。
- 全文のレビュー：残った 23 件の文献について全文を入手し、詳細なレビュー

を行った。この結果、さらに9件の文献が除外され、最終的に14件の文献が分析対象となった(図1、表1)。

6. データの抽出

データ抽出は、事前に定めたデータ抽出フォームを用いておこない、著者名、発表年、国、研究の目的・対象・方法、主要な結果、タスク・シフト/シェアに関連する具体的な内容を抽出項目として実施した。

なお、データ抽出は2名のレビューアで行ない、抽出されたデータの整合性を確保するため、クロスチェックを実施した。

7. データの分析

抽出されたデータを質的に分析し、共通のテーマやパターンを特定した。これにより、臨床検査技師におけるタスク・シフト/シェアの現状、課題、そして教育的支援の必要性についての全体像を明らかにした。また、各文献のデータの統合と解釈は、研究質問に基づいた枠組みに基づき実施した。

C. 研究結果

本研究では、臨床検査技師におけるタスク・シフト/シェアに関連する実態・課題・成果を包括的に把握することを目的として、国内外の文献14件を対象にスコーピングレビューを実施した。

対象文献は、内視鏡介助、病理検査(切り出し・標本作製等)、超音波検査、早朝採血、HIV検査・カウンセリング、検体管理など、多岐にわたる業務領域において、臨床検査技師が従来は医師等が担っていた業務の一部を担う取り組みを報告していた。

1. 業務対象の広がりや業務成果

文献分析の結果、臨床検査技師が関与するタ

スク・シフト/シェアの対象業務は、以下の5つの領域に分類された。

- (1) 病理業務(検体の切り出しや標本前処理:文献2,3,5)
- (2) 内視鏡・画像診断の介助業務(ESDの技師が可能な範囲の介助:文献1、超音波によるVA管理:文献9)
- (3) 採血・検体管理業務(早朝病棟採血:文献6、検体不受理の管理:文献12)
- (4) 感染症検査・カウンセリング(HIV検査の地域人材への移管:文献13,14)
- (5) 検査品質管理・業務調整(医師労働時間短縮に向けた検査室体制整備:文献8、医療アクシデントに関する影響評価:文献10)

これらの事例では、技師による業務実施により、処理時間の短縮、医師や看護師の負担軽減、患者サービスの質的向上といった成果が報告されていた。

特に、ESDでの介助における一括切除率や手技時間の改善(文献1)、切り出し作業における病理医の業務負担軽減(文献3)、早朝採血による入院患者の待機時間短縮(文献6)など、明確なパフォーマンス向上効果が示されていた。

2. 技師側の意識と現場の実施状況

一方、文献7(和歌山県)および文献4(佐賀県)などにおけるアンケート調査では、臨床検査技師自身の意識としてタスク・シフト/シェアへの前向きな姿勢が多く見られたものの、実際には施設ごとの運用格差や実施体制の差異も存在していた。また、病理検査分野においては技師の関与範囲に対する法的解釈の難しさが、現場レベルでの導入の障壁となっている事例も確認された。

3. 制度的・教育的課題

業務拡大に伴う最大の課題は、制度整備と教育体制の不足である。文献 10 では、タスク・シフト／シェアが医療アクシデントに与える影響について、適切な教育・訓練が担保されていれば安全性を確保できる可能性が高いことが報告されている。一方で、現時点では統一された教育プログラムや業務範囲の明確な規定が不十分であり、技師が新たな業務に取り組む際の心理的・法的な不安が存在することも明らかとなった（文献 7, 11）。また、文献 11 では、静脈路確保や造影剤投与など新しい技能領域に対する学生・現任者の教育ニーズが示されており、今後の教育設計への示唆が得られた。

4. 安全性・質担保と今後の方向性

タスク・シフト／シェアの推進にあたっては、単なる業務移管ではなく、医療安全の担保、責任の明確化、業務手順の標準化が重要であることが各文献で共通して示唆されていた。とくに文献 8、10 においては、医師の労働時間短縮政策と連動したタスク・シフト推進に際し、検査部門での準備事項（マニュアル整備、リスク評価、教育研修等）の重要性が具体的に提起されていた。

5. 患者満足度とケアの質の向上

本スコーピングレビューにおいては、臨床検査技師によるタスク・シフト／シェアが、医師等の業務負担軽減に寄与するだけでなく、患者満足度やケアの質の向上に資する可能性があることを示唆する報告が複数確認された。

具体的には、以下のような視点が文献から抽出された。

- (1) 検査業務の迅速化による待機時間の短縮や早期診断の実現（文献 1, 6, 9, 12）
臨床検査技師が関与した ESD や早朝採

血への取り組みにより、医療提供体制が効率化され、患者の検査待機ストレスが軽減されたと報告された。

- (2) 検査の質・信頼性の担保と標準化による安全性の確保（文献 2, 3, 5, 7）

病理切り出しや検体受付等におけるタスク・シェアの実施により、業務の属人性が低減し、患者検体の取り違えや再検査のリスクが減少したという記述が見られた。

- (3) 患者との距離が近い人材による説明・支援の実施が心理的安心感に寄与する可能性（文献 13, 14）

フィリピンやタイにおいて、コミュニティヘルスワーカーやレイプロバイダーによる HIV 検査・カウンセリングの導入が、対象患者の心理的バリアを低減し、受診率・満足度の向上につながったという報告がなされている。

- (4) 学生教育を通じたケア提供能力の涵養（文献 11）

静脈路確保や造影剤の扱いに関する教育を受けた学生・若手検査技師の関与により、医療現場での患者対応力が向上し、患者満足度の間接的向上が期待される内容が確認された。

これらの報告は、タスク・シフト／シェアの導入が、単なる業務負担軽減のための手段ではなく、「患者中心の医療」の質的向上を目的とした施策としても機能し得ることを示している。

6. 国際的な視点と地域差

本研究のスコーピングレビューにおいては、国内文献を中心とした収集を行ったが、臨床検査技師のタスク・シフト／シェアに関する国際的な文献は極めて少なく、分析対象として明確

に該当したのはフィリピンおよびタイにおける HIV 検査に関する研究 2 件であった（文献 13、14）。

これらの文献では、検査業務の一部（HIV 迅速診断検査やカウンセリング）を、医療資格を有しない地域ヘルスワーカーやレイプロバイダー（一般市民トレーニング受講者）へと移管する取り組みが行われていた。

結果として、検査アクセスの向上、検査実施率の改善、医療従事者の負担軽減といった効果が確認されていた。

各国の制度・背景と実施状況を整理すると表 2 のような特徴が明らかとなる。ただし、いずれの報告においても、教育体制や責任の明確化に課題が残されており、安全性と倫理的配慮への取り組みの重要性が指摘されていた。

D. 考察

本スコーピングレビューを通じて、臨床検査技師へのタスク・シフト／シェアは、医師の労働負担軽減に寄与するだけでなく、医療提供体制の効率化および質の向上にも資する実践であることが複数の文献から示唆された。

一方で、効果的かつ持続可能なタスク・シフトの実現には、制度的整備、教育体制の確保、責任と権限の明確化、アウトカムの測定指標の確立といった複合的な要素の整備が不可欠である。

1. 医師業務の一部を臨床検査技師が代替する実践

（例：内視鏡検査の介助、早朝病棟採血、VA（血管アクセス）管理）

これらの実践は、医師の長時間労働是正の文脈で導入されており、時間外勤務や当直・早朝業務の負担を軽減する点で一定の成果が認められた。

内視鏡検査における臨床検査技師の介助は、処置時間の短縮やチームワークの安定化に寄与していた（文献 1）。また、早朝採血においても、業務の標準化やエラー低減に資する体制が整備されている事例が報告されていた（文献 6）。

しかし、これらの業務は本来的に医師が担っていた業務であり、安全性確保・技術レベルの担保・法的位置づけの明確化が極めて重要である。業務委譲を単に「人的補完」と捉えるのではなく、多職種による協働の仕組みとして制度設計を行うことが求められる。

2. 病理・検体処理工程における分担と標準化

（例：手術摘出標本の切り出し、病理検体の受付対応）

病理検査の一部業務（切り出し等）を臨床検査技師が担うことで、病理診断の迅速化や精度向上につながっている事例が確認された（文献 3、5）。また、検体受付においては、臨床検査技師による受入拒否率の低下や検体エラーの減少が報告されている（文献 12）。

これらの取組は、属人的で曖昧になりがちな病理領域の業務を、定型化・標準化するうえで極めて有効である。

一方で、法的解釈が難しく、業務範囲の曖昧さが職種間の摩擦を生む要因ともなっており、責任の所在・訓練の基準・資格制度との整合を明確にする必要がある。特に、医師法との関係や診療報酬上の扱いの整理について、政策的支援が求められる分野と考えられる。

3. 患者満足度とケアの質の向上への寄与

（例：説明対応、迅速検査、接遇の質）

タスク・シフトにより、検査の迅速化（例：早朝採血、ESD の関与等）や標準化が実現され、結果として患者の不安や不満の低減、待機時間

の短縮が図られていると報告されていた(文献 1, 6, 9, 12)。また、レイプロバイダーやコミュニティヘルスワーカーが HIV 検査・説明を担う事例では、患者が抱える心理的障壁が軽減され、検査受診率や満足度が上昇したことが示されていた(文献 13, 14)。

これらは、タスク・シフトの意義が単に作業の代替に留まらず、患者中心の医療提供を支援する手段であることを示している。

一方で、検査技師の対人スキル・説明能力・接遇への教育が必須となるため、大学教育・臨床現場での育成体制の強化が不可欠である。

4. 教育および人材育成に関する示唆

(例：静脈路確保、造影剤使用への対応)

学生教育において、静脈路確保や造影剤への知識を持つことが、将来的な実務能力の担保につながるとする報告が見られた(文献 11)。

こうしたスキルは、今後の検査業務の高度化・多様化を踏まえても、初期教育段階から段階的に育成すべきである。

一方で、教育機関と現場との連携が不十分な場合、教育内容と実務の乖離が生じる可能性がある。タスク・シフトに必要な能力が体系的に養成されるよう、卒前・卒後教育の一貫性確保、現場実習の充実、継続教育制度の整備が求められる。

5. 国際的な事例からの比較と限界

(例：フィリピン・タイにおける HIV 関連業務の委譲)

国際的な視点からは、非医療者への HIV カウンセリングや迅速検査の委譲が、サービスの到達率改善や患者受診率向上に貢献している点が注目された(文献 13, 14)。

制度設計や研修体制が適切に整備されてい

ることにより、専門職の過重労働を回避しつつ、高リスク集団への対応が円滑に行われている。

ただし、文献数が非常に限られており(本レビューでは 2 件)、国際比較による普遍的示唆を導くにはバイアスや文献的限界が存在する。

また、医療制度や職種構成が日本とは大きく異なるため、制度的・文化的背景を踏まえた慎重な解釈と応用が必要である。

E. 結論

本レビューの結果から、臨床検査技師によるタスク・シフト／シェアは、以下の複合的なメリットを医療現場にもたらすことが確認された。

- 医師の業務負担軽減による勤務環境の改善
- 業務の迅速化と標準化による医療の質向上
- 検査アクセス向上や説明対応強化による患者満足度の向上
- 学生・若手技師の育成強化による将来的な人材確保

一方で、こうした利点を安定的かつ持続可能な形で実現するには、以下のような課題に戦略的に対応していく必要がある。

- 業務範囲と責任の明確化
- 安全性と品質を担保する教育・訓練の制度化
- 職種間の調整・合意形成と多職種連携の文化醸成
- 国際的事例の慎重な検討と比較研究の促進
- タスク・シフトの効果を示すアウトカ

ム評価指標の整備

今後は、現場の実態に即した柔軟な制度設計と、エビデンスに基づく政策立案を両輪として、タスク・シフト／シェアのさらなる普及と定着を図る必要がある。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

- ・第18回医療の質・安全学会学術集会 2023年11月25日
- ・第75回日本医学検査学会 2025年5月11日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

I. 参考文献

1. 曾田 悠介, 結城 崇史, 内田 靖, et al. 当院における介助者の違いと内視鏡的粘膜下層剥離術成績の検討 臨床検査技師と医師での比較. 島根医検. 2021;49(1):47-50.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2021295972>
2. 東 学, 古屋 周一郎, 石田 克成, 山下 和也, 浅野 敦, 滝野 寿. 病理検査におけるタスクシフト・シェアに関する意識調査

日臨技精度管理調査アンケートによる報告. 医学検査. 2022;71(3):510-522.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2023044933>

3. 前田 志穂, 相部 晴香, 中嶋 愛海, et al. 病理技師が行う手術摘出材料切り出しの利点と欠点. 広島臨床検査. 2022;11:51-55.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2023197877>
4. 大枝 敏, 高橋 宏和, 末岡 榮三朗, 小谷 和彦. チーム医療に関する実態調査 佐賀県の中核病院における検討. 日臨検医学会誌. 2023;71(11):763-769.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2024131642>
5. 藤澤 宏樹, 相部 晴香, 畝原 璃夢, et al. 広島県内の切り出しに関するアンケート調査報告. 広島臨床検査. 2023;12:57-62.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2024257447>
6. 横山 颯大, 加藤 洋平, 関根 綾子, et al. 当院における早朝病棟採血への取り組み. 医学検査. 2024;73(2):386-393.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2024271798>
7. 森下 陽子, 栗林 伴有, 田中 規仁. タスク・シフト／シェアに推進される業務と課題 和歌山県内の臨床検査技師意識調査から. 会誌和臨技. 2024;51:6-12.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2025071107>
8. 板橋 匠美, 深澤 恵治, 勝山 政彦, 丸田 秀夫. 医師労働時間短縮計画の策定に臨床検査技師が貢献するために各施設の臨床検査室が着手すべき内容について. 医学検査. 2024;73(4):794-799.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/20250>

- 85850
Erad. 2018;4(1):12–15.
doi:10.1016/S2055-6640(20)30235-1
9. 田中 脩斗, 川上 崇志, 菊地 香奈子, et al.
当院における超音波装置を用いた VA 管理の現状. 腎と透析. 2024;97(別冊 アクセ ス 2024):209–211.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2025119678>
 10. 板橋 匠美, 益田 泰蔵, 深澤 恵治, 丸田 秀夫. 臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアが医療アクシデントに与える影響について 令和 5 年度組織実態調査と会員意識調査に基づく影響評価. 医学検査. 2025;74(1):193–199.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/Z124280025>
 11. 杉山 梨奈, 小宮山 恭弘. タスク・シフト/シェア教育 学生と臨床検査技師の静脈路確保および造影剤アンケート結果による解析. 臨床検査学教育. 2025;17(1):10–14.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/Z404260002>
 12. 横山 寛朗, 手代森 隆一, 山崎 栞菜, et al.
当院における受入不可検体の推移と傾向. 青 臨 技 会 誌 . 2025;49:51–54.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/Z416460027>
 13. Sy TRL, Padmawati RS, Baja ES, Ahmad RA. Acceptability and feasibility of delegating HIV counseling and testing for TB patients to community health workers in the Philippines: a mixed methods study. BMC Public Health. 2019;19(1):185–7.
doi:10.1186/s12889-019-6497-7
 14. Wongkanya R, Pankam T, Wolf S, et al. HIV rapid diagnostic testing by lay providers in a key population-led health service programme in Thailand. J Virus

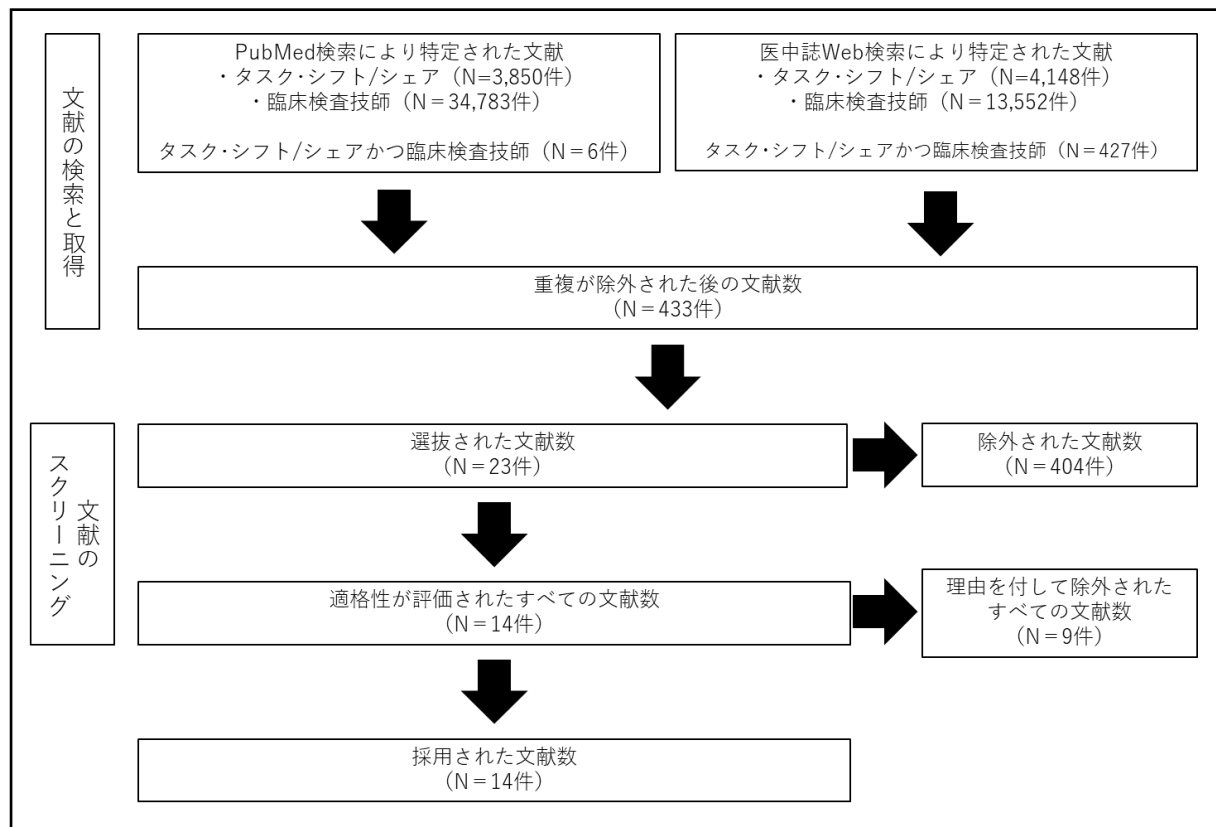


図1 文献抽出方法

表1 分析対象となった文献一覧

No.	著者名	書誌事項	発表国	タイトル
1	杉山 梨奈, 小宮山 恭弘	臨床検査学教育(1883-3144)17巻1号 Page10-14(2025.03)	日本	タスク・シフト/シェア教育 学生と臨床検査技師の静脈路確保および造影剤アンケート結果による解析
2	横山 寛朗, 手代森 隆一, 山崎 菜葉, 田中 孔明, 安田 光志, 三上 英子, 北澤 淳一	青臨技会誌(1340-3060)49巻 Page51-54(2025.03)	日本	当院における受入不可検体の推移と傾向
3	板橋 匠美, 益田 泰蔵, 深澤 恵治, 丸田 秀夫	医学検査(0915-8669)74巻1号 Page193-199(2025.01)	日本	臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアが医療アクシデントに与える影響について 令和5年度組織実態調査と会員意識調査に基づく影響評価
4	板橋 匠美, 深澤 恵治, 勝山 政彦, 丸田 秀夫	医学検査(0915-8669)73巻4号 Page794-799(2024.10)	日本	医師労働時間短縮計画の策定に臨床検査技師が貢献するために各施設の臨床検査室が着手すべき内容について
5	田中 脩斗, 川上 崇志, 菊地 香奈子, 佐藤 貴仁, 刈込 秀樹, 工藤 真司, 根本 佳和, 北岡 斎, 大崎 慎一, 池田 重雄, 服部 美由紀, 谷 美行, 中谷 美砂, 片岡 利奈, 沢里 直哉	腎と透析(0385-2156)97巻別冊 アクセス2024 Page209-211(2024.09)	日本	当院における超音波装置を用いたVA管理の現状
6	横山 颯大, 加藤 洋平, 関根 綾子, 岡 有希, 石田 秀和, 深尾 亜由美, 大倉 宏之, 菊地 良介	医学検査(0915-8669)73巻2号 Page386-393(2024.04)	日本	当院における早朝病棟採血への取り組み
7	森下 陽子, 栗林 伴有, 田中 規仁	会誌和臨技(2187-6479)51巻 Page6-12(2024.03)	日本	タスク・シフト/シェアに推進される業務と課題 和歌山県内の臨床検査技師意識調査から
8	藤澤 宏樹, 相部 晴香, 畠原 瑞夢, 大方 裕美, 金光 寛樹, 小林 剛, 永崎 裕志, 山内 千絢, 渡川 美弥子	広島臨床検査(2187-4263)12巻 Page57-62(2023.12)	日本	広島県内の切り出しに関するアンケート調査報告
9	大枝 敏, 高橋 宏和, 末岡 榮三朗, 小谷 和彦	日本臨床検査医学会誌(2436-2727)71巻11号 Page763-769(2023.11)	日本	チーム医療に関する実態調査 佐賀県の中核病院における検討
10	前田 志穂, 相部 晴香, 中嶋 愛海, 羽原 幸輝, 神田 真規, 佐々木 健司, 米原 修治	広島臨床検査(2187-4263)11巻 Page51-55(2022.12)	日本	病理技師が行う手術摘出材料切り出しの利点と欠点
11	東 学, 古屋 周一郎, 石田 克成, 山下 和也, 浅野 敦, 滝野 寿	医学検査(0915-8669)71巻3号 Page510-522(2022.07)	日本	病理検査におけるタスクシフト・シェアに関する意識調査 日臨技精度管理調査アンケートによる報告
12	曾田 悠介, 結城 崇史, 内田 靖, 錦織 昌明, 高野 智晴, 加藤 真由美, 長岡 直人	島根医学検査(1342-9051)49巻1号 Page47-50(2021.06)	日本	当院における介助者の違いと内視鏡的粘膜下層剥離術成績の検討 臨床検査技師と医師での比較
13	Sy TRL, Padmawati RS, Baja ES, Ahmad RA.	BMC Public Health. 2019 Feb 13;19(1):185. doi: 10.1186/s12889-019-6497-7.	フィリピン	Acceptability and feasibility of delegating HIV counseling and testing for TB patients to community health workers in the Philippines: a mixed methods study
14	Wongkanya R, Pankam T, Wolf S, Pattanachaiwit S, Jantarapakde J, Pengnongyang S, Thapwong P, Udomjirasirichot A, Churattanakraisri Y, Prawepray N, Paksornsit A, Sitthipau T, Petchaithong S, Jitsakulchaidejt R, Nookhai S, Lertpiriyasuwat C, Ongwandee S, Phanuphak P, Phanuphak N.	J Virus Erad. 2018 Jan 1;4(1):12-15. doi: 10.1016/S2055-6640(20)30235-1.	タイ	HIV rapid diagnostic testing by lay providers in a key population-led health service programme in Thailand

表2 他国で文献化されていた内容の特徴

国・地域	主な対象業務	担い手	効果・成果
フィリピン	HIVカウンセリング・検査	コミュニティヘルスワーカー	接触率向上、検査受診率の改善、心理的障壁低減
タイ	HIV迅速診断検査	レイプロバイダー（非医療者）	キー・ポピュレーションへの高到達、制度的支援事例